

平成 21 年度 九州大学 2 次試験前期日程 (数学問題)120 分  
文系 (文学部, 教育学部, 法学部, 経済学部 (経済・経営))

問題 1 2 3 4

- 1  $\angle A$  が直角の二等辺三角形 ABC を考える。辺 BC の中点を M とし、線分 AM を 1:3 に内分する点を P とする。また、点 P を通り辺 BC に平行な直線と、辺 AB, AC との交点をそれぞれ Q, R とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1)  $\cos \angle QMR$  を求めよ。  
(2)  $\angle QMR$  の 2 倍と  $\angle QMB$  の大小を判定せよ。

- 2 座標平面に 3 点  $O(0, 0)$ ,  $A(2, 6)$ ,  $B(3, 4)$  をとり、点 O から直線 AB に垂線 OC を下ろす。また、実数  $s$  と  $t$  に対し、点 P を

$$\vec{OP} = s\vec{OA} + t\vec{OB}$$

で定める。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 点 C の座標を求め、 $|\vec{CP}|^2$  を  $s$  と  $t$  を用いて表せ。  
(2)  $s = \frac{1}{2}$  とし、 $t$  を  $t \geq 0$  の範囲で動かすとき、 $|\vec{CP}|^2$  の最小値を求めよ。  
(3)  $s = 1$  とし、 $t$  を  $t \geq 0$  の範囲で動かすとき、 $|\vec{CP}|^2$  の最小値を求めよ。

- 3 1 から 6 までの数字が 1 つずつ書かれている 6 枚のカードがある。これらをよくきった上で、左から右に一列に並べる。カードに書かれた数字を左から順に  $a, b, c, d, e, f$  とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1)  $a + b = c$  となる確率を求めよ。  
(2)  $a + b = c + d$  となる確率を求めよ。

- 4 曲線  $y = x^2$  の点  $P(a, a^2)$  における接線と点  $Q(b, b^2)$  における接線が点 R で交わるとする。ただし、 $a < 0 < b$  とする。このとき、次の問いに答えよ。

- (1) 点 R の座標および三角形 PRQ の面積を求めよ。  
(2) 線分 PR と線分 QR を 2 辺とする平行四辺形 PRQS とする。折れ線 PSQ と曲線  $y = x^2$  で囲まれた図形の面積を求めよ。  
(3)  $\angle PRQ = 90^\circ$  をみたしながら P と Q が動くとき、(2) で求めた面積の最小値を求めよ。

## 解答例

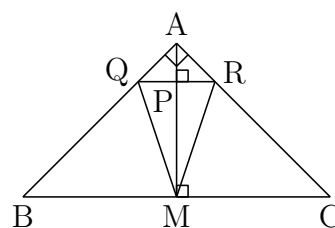
- 1 (1) 求める三角比は、三角形の大きさに関係しないので、右の図において  $AP = 1$  とすると

$$PM = 3, PQ = PR = 1, QR = 2,$$

$$MQ = MR = \sqrt{3^2 + 1^2} = \sqrt{10}$$

余弦定理により

$$\cos \angle QMR = \frac{(\sqrt{10})^2 + (\sqrt{10})^2 - 2^2}{2 \cdot \sqrt{10} \cdot \sqrt{10}} = \frac{10 + 10 - 4}{2 \cdot 10} = \frac{4}{5}$$



- (2)  $MB = 4$ ,  $MQ = \sqrt{10}$ ,  $BQ = 3\sqrt{2}$  であるから、余弦定理により

$$\cos \angle QMB = \frac{4^2 + (\sqrt{10})^2 - (3\sqrt{2})^2}{2 \cdot 4 \cdot \sqrt{10}} = \frac{16 + 10 - 18}{2 \cdot 4 \sqrt{10}} = \frac{1}{\sqrt{10}}$$

(1) の結果から  $\cos 2\angle QMR = 2 \cos^2 \angle QMR - 1 = 2 \left(\frac{4}{5}\right)^2 - 1 = \frac{7}{25}$

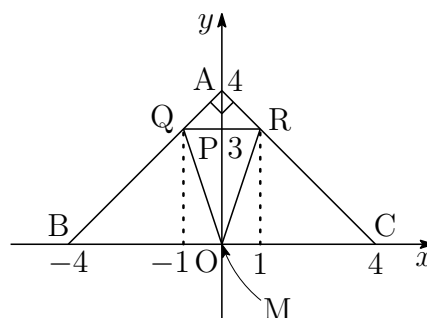
ここで  $\frac{1}{\sqrt{10}} - \frac{7}{25} = \frac{5\sqrt{10} - 14}{50} = \frac{\sqrt{250} - \sqrt{196}}{50} > 0$

よって、 $2\angle QMR$ ,  $\angle QMB$  は鋭角であるから  $2\angle QMR > \angle QMB$

別解 M は BC の中点であるから、M を原点にとる。このとき、求める三角比は、三角形の大きさに関係にしないので、右の図のように

$$A(0, 4), B(-4, 0), C(4, 0),$$

$$P(0, 3), Q(-1, 3), R(1, 3)$$



とすると、 $\overrightarrow{MQ} = (-1, 3)$ ,  $\overrightarrow{MR} = (1, 3)$ ,  $\overrightarrow{MB} = (-4, 0)$  であるから

$$\cos \angle QMR = \frac{\overrightarrow{MQ} \cdot \overrightarrow{MR}}{|\overrightarrow{MQ}| |\overrightarrow{MR}|} = \frac{-1 \cdot 1 + 3 \cdot 3}{\sqrt{(-1)^2 + 3^2} \sqrt{1^2 + 3^2}} = \frac{4}{5}$$

$$\cos \angle QMB = \frac{\overrightarrow{MQ} \cdot \overrightarrow{MB}}{|\overrightarrow{MQ}| |\overrightarrow{MB}|} = \frac{-1 \cdot (-4) + 3 \cdot 0}{\sqrt{(-1)^2 + 3^2} \sqrt{4^2 + 0^2}} = \frac{1}{\sqrt{10}}$$



- 2 (1) Cは直線 AB 上にあるから、実数  $\alpha$  を用いて

$$\begin{aligned}\vec{OC} &= \alpha\vec{OA} + (1 - \alpha)\vec{OB} \\ &= \alpha(2, 6) + (1 - \alpha)(3, 4) \\ &= (3 - \alpha, 4 + 2\alpha)\end{aligned}$$

$\vec{OC} \perp \vec{AB}$ ,  $\vec{AB} = (3, 4) - (2, 6) = (1, -2)$  であるから

$$(3 - \alpha) \cdot 1 + (4 + 2\alpha) \cdot (-2) = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \alpha = -1$$

したがって **C(4, 2)**

与式および上の結果から

$$\begin{aligned}\vec{CP} &= \vec{OP} - \vec{OC} = s\vec{OA} + t\vec{OB} - \vec{OC} \\ &= s(2, 6) + t(3, 4) - (4, 2) \\ &= (2s + 3t - 4, 6s + 4t - 2)\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}\text{よって} \quad |\vec{CP}|^2 &= (2s + 3t - 4)^2 + (6s + 4t - 2)^2 \\ &= 40s^2 + 25t^2 + 60st - 40s - 40t + 20\end{aligned}$$

- (2)  $s = \frac{1}{2}$  を (1) の結果に代入して

$$|\vec{CP}|^2 = 25t^2 - 10t + 10 = 25 \left( t - \frac{1}{5} \right)^2 + 9 \quad (t \geq 0)$$

したがって、 $|\vec{CP}|^2$  は、 $t = \frac{1}{5}$  で最小値 **9** をとる。

- (3)  $s = 1$  を (1) の結果に代入して

$$|\vec{CP}|^2 = 25t^2 + 20t + 20 = 25 \left( t + \frac{2}{5} \right)^2 + 16 \quad (t \geq 0)$$

したがって、 $|\vec{CP}|^2$  は、 $t = 0$  で最小値 **20** をとる。 ■

**3** (1)  $a + b = c$  を満たす  $a < b$  の組は、次の 6 通り

$$c = 3 \text{ のとき } (a, b) = (1, 2)$$

$$c = 4 \text{ のとき } (a, b) = (1, 3)$$

$$c = 5 \text{ のとき } (a, b) = (1, 4), (2, 3)$$

$$c = 6 \text{ のとき } (a, b) = (1, 5), (2, 4)$$

このとき、 $a > b$  の場合も含めて  $6 \times 2!$  通りある。また、 $d, e, f$  の並べ方が  $3!$  通りあるので、求める確率は

$$\frac{6 \times 2! \times 3!}{6!} = \frac{1}{10}$$

(2)  $a + b = c + d$  を満たす  $a < b, c < d$  の組は、次の 14 通り

$$a + b = 5 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (1, 4, 2, 3), (2, 3, 1, 4)$$

$$a + b = 6 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (1, 5, 2, 4), (2, 4, 1, 5)$$

$$a + b = 7 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (1, 6, 2, 5), (2, 5, 1, 6), \\ (1, 6, 3, 4), (3, 4, 1, 6), \\ (2, 5, 3, 4), (3, 4, 2, 5)$$

$$a + b = 8 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (2, 6, 3, 5), (3, 5, 2, 6)$$

$$a + b = 9 \text{ のとき } (a, b, c, d) = (3, 6, 4, 5), (4, 5, 3, 6)$$

このとき、 $a > b, c > d$  の場合も含めて  $14 \times 2! \times 2!$  通りある。また、 $e, f$  の並べ方が  $2!$  通りあるので、求める確率は

$$\frac{14 \times 2! \times 2! \times 2!}{6!} = \frac{7}{45}$$



- 4 (1)  $y = x^2$  を微分すると  $y' = 2x$ .

点  $P(a, a^2)$  における接線の方程式は

$$y - a^2 = 2a(x - a) \quad \text{ゆえに} \quad y = 2ax - a^2 \quad \dots \textcircled{1}$$

同様に、点  $Q(b, b^2)$  における接線の方程式は  $y = 2bx - b^2 \quad \dots \textcircled{2}$

①, ② を解いて  $R\left(\frac{a+b}{2}, ab\right)$

直線  $PQ$  の方程式は

$$y - a^2 = \frac{b^2 - a^2}{b - a}(x - a) \quad \text{すなわち} \quad y = (a + b)x - ab$$

直線  $PQ$  上の  $x$  座標が  $\frac{a+b}{2}$  である点を  $M$  とすると  $M\left(\frac{a+b}{2}, \frac{a^2+b^2}{2}\right)$

このとき  $MR = \frac{a^2+b^2}{2} - ab = \frac{1}{2}(b-a)^2$

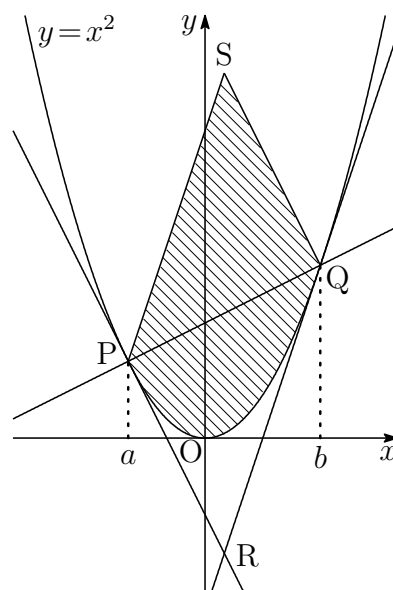
よって  $\triangle PRQ = \frac{1}{2}MR \times (b-a) = \frac{1}{2} \times \frac{1}{2}(b-a)^2 \times (b-a) = \frac{1}{4}(b-a)^3$

- (2) 直線  $PQ$  と放物線  $y = x^2$  で囲まれた部分の面積は

$$\begin{aligned} & \int_a^b \{(a+b)x - ab - x^2\} dx \\ &= - \int_a^b (x-a)(x-b) dx \\ &= \frac{1}{6}(b-a)^3 \end{aligned}$$

$\triangle PSQ$  の面積は  $\triangle PRQ$  の面積に等しいので、上式および (1) の結果から、求める図形の面積は

$$\frac{1}{6}(b-a)^3 + \frac{1}{4}(b-a)^3 = \frac{5}{12}(b-a)^3$$



(3)  $\angle PRQ = 90^\circ$  のとき, 直線 ①, ② は直交するので

$$2a \times 2b = -1 \quad \text{ゆえに} \quad a = -\frac{1}{4b}$$

これを ② の結果に代入すると  $\frac{5}{12} \left( b + \frac{1}{4b} \right)^3$

ここで,  $b > 0$  であるから, 相加平均と相乗平均の関係により

$$b + \frac{1}{4b} \geq 2\sqrt{b \times \frac{1}{4b}} = 1$$

よって, 求める最小値は  $\frac{5}{12} \cdot 1^3 = \frac{5}{12}$

補足

放物線と放物線の2本の接線で囲まれた図形の面積  $S_1$  と, その2つの接点を結ぶ直線と放物線で囲まれた図形の面積  $S_2$  の比は,  $S_1 : S_2 = 1 : 2$  である. また, 2本の接線の交点の  $x$  座標は, 2つの接点の中点の  $x$  座標と等しい.

